

道徳 生きる喜び

平成29年度 射水市立小杉小学校2年

1 主題名 生きる喜び（生命尊重）

教材名 「ぼく」（出典 東京書籍）

子供たちは自分以外の動物や植物にも命があり、その命を大切にしなければならないということは理解しているが、生きていく自分については改めて考える機会は少ないといえる。子供たちに、自分のことが好きか嫌いかなアンケートをとり、「自分のことが嫌になる時はどんなときですか」と聞くと、うまくできなかったときや失敗したときなどと理由を答えている子供が多かった。失敗しても自分にはよいところや素敵などころがいっぱいあることを知り、自信をもっていろんなことにチャレンジして行ってほしいと考え授業を行った。

2 授業の流れと子供たちの反応

「ぼく」という登場人物の男の子が自分の好きなものを教えてあげようという語りかけから始まる。その中でも一番好きなものは「ぼく」であり、『「ぼく」がいるからいろいろなものを好きになれる。』『「ぼく」がいるから楽しい経験ができる。』というお話である。

<自分の好きなものはなにか？ もし、自分がいなかったら・・・>

おいしい好きな食べ物が食べられない

行きたい海とか公園とか山とかお店
とかに行くことができない。



好きなサッカーもできない。

友達とあそぶこともできない。

大好きなお母さんやお父さんや妹、弟、おじいちゃん、おばあちゃんに会えなくなる。

子供たちは、自分がいないと何もできないことをよく理解し、積極的に発表した。そして、

「自分のことが一番好きで、自分のことを大事にしないといけないんだ」ということを感じとっていた。「自分の好きな宝物は大事にしているよね。同じように大好きな自分を大切にしていこうね。」と話した。

<自分のすきなところ、よいところ、がんばっているところはどんなところ？>

謙遜して、なかなか自分では思いつかない子供は、カードに書いて友達から教えてもらったり、日常での様子を担任が話したりして、自分のよいところ、がんばっているところを見つけることができた。少し照れくさそうだったり、自分のことなのに「へえ～そうなんだ」と初めて知ったりしていた。

<自分に賞状をあげよう！>

子供たちは、自分のよいところやがんばっているところを「水泳がじょうずで賞」「本をたくさん読むで賞」「たくさん発表をするで賞」等と上手に考えていた。中には、家族と一緒にいられることや自分が一生懸命がんばっていることに喜びを感じて、「しあわせで賞」と書いている子供もいた。

3 授業を終えて子供たちの様子

学習発表会では、練習を重ね本番を迎えるときには、「100点のダンスをするぞ！」「120点のダンスにしたい！」と、練習してできたことに自信をもって一生懸命取り組む姿が見られた。また、持久走測定では、「自分の力を全部出し切れてよかった」「順位は上がらなくても、自分の中では一生懸命走れたからよかった」などと感想を書いていた。学習では、かけ算九九をすらすらに言えるようにたくさん練習してくる子、町探検で見つけたことを劇やクイズで紹介しようと休み時間に友達と熱心に練習する子など、一生懸命取り組んで各自が自分のよさを見つけ、自信をつけて積極的にがんばろうとする子供たちの姿が増えた。

